1. 14.2 128 パイトの共有メモリ領域

メインプ ロ ックのアドレ ス ＄ FC80~$FCFF の 128 パイト と． サププ ロ ックのアドレ ス

$D380~$D3 FF の 128 パイトは． l山i CPU で共イiするメモリ領域です．

たとえば． メイン CPU にて． SFC80 番地に、 SAA というデー タを｝ド込めば． サプ CPU ヵ<、 $0380番地をアクセスすることによって｀ I,iJじ＄ AA というデータをi允込むこどか可能です． ただし． メイン CPU とサプ CPU ヵ<, 1lil 時に共イi RAM にアクセスすることはできす． かならずどちかの一）iのみからしかアクセスできません． そのため． メイン CPU か． jMiメモリをアクセスする問は． サプ CPUの動作を止めて (HALT) 、 その間にアクセスするといった方法を取っています．

共有メモリ領域では， CRTK示のためのラインデータ． メインCPU からサプ CPU へのコマンドやデー タ， サプCPU から メイン CPU へのテー タなどがやリとリされます．

1. 14.3 BUSY 信号

サプ CPU が． メイン CPU からのコマンドを‘共行中であることを小す1註サ線です． BUSYU サが 1の場合｀ サプ CPU がコマンド尖行中であリ． メイン CPU は次のコマンドを送ることかできません．ただし． 例外として， サプ CPU がBUSY 状態であっても． CANCEL f,{り（メイン CPU からサプ CPU への IRQ 1rtサ）によって， BUSY 状態を解除することができます．

1. 14.4 HALT信号

メイン CPU とサブ CPU が同時に． 共有 RAM をアクセスすることを避けるために． メイン CPUは｀ BUSY 船号をチェックして， サプ CPU が BUSY 状態でないことを確認した後に． HALT f**L;** サを 0 にして． サブ CPU を停止 (HALT) させてから｀ 共イi RAM をアクセスします． ま た． HALTの解除も｀ メイン CPU が共1i RAM のアクセスを終了した時点：て-, HALT 信りを 1 にすることによって行なしヽます．

1. 14.5 CANCEL 1言号（メイン CPU からサプ CPU への IRQ信号）

サプ CPU がコマンド‘K行中であっても｀ メイン CPU は必要に応じて． サプ CPU に IRQ',りl込みを発'tさせて強制的に命令の尖行を棺除することかできます．

1. 14.6 ATTENTION i言号（サプ CPU からメイン CPU への lR Q 1言号）

サプ CPU は， メイン CPU によって． インター パルタイマ、 クロック、 プログラマプルファンクションキーの割込みの指定があった時に， このはサ線を｝tiいて， メイン CPU に1i，l込みを発生させます．

1 - 52